

第7回理事会(臨時) 議事概要

- 1 開催日時 令和3年11月15日(月) 15時00分～16時45分
- 2 開催場所 Japan Sport Olympic Square 14階 岸清一メモリアルルーム(東京都・新宿区)
次の理事は、Web会議システム(インターネット回線を使用した音声と映像を伝達するシステム)により参加すると同時に適時的確な意見表明が互いのできる状態となっていることを確認した。

伊藤雅俊	栗原美津枝	鈴木大地
高橋尚子	田口亜希	土肥美智子
古谷利彦	水鳥寿思	飯坂紳治
塗師純子	太田雄貴	

- 3 出席者 理事総数 30名
出席理事 26名(代表理事を含む。)

会長	山下泰裕	副会長	三屋裕子
専務理事	星野一朗		
常務理事	靱井圭子	常務理事	尾縣貢
常務理事	小谷実可子	常務理事	北野貴裕
常務理事	酒井邦彦	常務理事	横井裕
常務理事	細倉浩司		
理事	伊東秀仁	理事	伊藤雅俊
理事	岩渕健輔	理事	岡本友章
理事	栗原美津枝	理事	杉山文野
理事	鈴木大地	理事	須藤実和
理事	高橋尚子	理事	高橋成美
理事	田口亜希	理事	谷本歩実
理事	土肥美智子	理事	原田雅彦
理事	古谷利彦	理事	水鳥寿思

監事総数 3名

出席監事 有竹隆佐、飯坂紳治、塗師純子

オブザーバー 1名

太田雄貴

- 4 議事の経過の要領及びその結果

冒頭、山下会長より、先般出席したANOC総会ではバッハIOC会長やミッチェルANOC会長代行が講演等でSDGsに対するスポーツ界の関りを強調するとともに会議ではスペインNOC等の取り組みが紹介された。本会各委員会でもできることを考えていただきたい。本理事会では、本会ビジョンと2022-2024の中期計画で掲げる5つの柱を踏まえつつ、活動内容を検討していただき、より活発な組織運営につなげていきたいと説明した。

(1)第1号議案 中期計画について

- ・9月の理事会で中期計画の施策テーマにつき提示し、意見収集を行い、現在、専門委員会、専門部会で議論いただいている。今後、1月に向けて中期計画を最終化していくが、その前提として東京2020大会に向けて設定した目標の達成状況を踏まえて今後の議論を進めていく必要がある。
- ・JOC GOAL & ACTION FOR TOKYO 2020 とは、JOCの3つの役割「アスリートの育成・支援」、「オリンピズムの普及・推進」、「国際総合競技大会の派遣・招致、国際化の推進」

に基づいて、それぞれ東京 2020 大会を通じて達成すべきことを定めたものである。

- ・ 目標は期限を設けているものや達成の度合いを設定しているものがあるが、大会開催前の 6 月末に 5,000 人程度のウェブアンケート調査の結果も踏まえて目標を設定している。
- ・ 大会を通じて、施策の 8 割は目標達成した。JOC GOAL&ACTION FOR TOKYO 2020 は大会が延期になる前に定めたが、コロナ禍による大会延期を踏まえて見直しを実施し、8 割の目標達成は現実的で妥当な目標が定められたことによるものと考えている。残りの 2 割は年度末に向けて進行中であったり、例えば「パレードの実施」のようにどうしてもコロナ禍で実施できなかつたもの、行動制限等により当時予定していた規模で実施できなかつたものが含まれている。
- ・ また、JOC の 3 つの役割について主に以下のような成果があげられた。
 - 1) アスリートの育成・支援
 - i) アスリートの活躍
史上最高となる金メダル数や、JOC エリートアカデミー修了生のメダル獲得など
 - ii) コロナ禍での大会
コロナ禍での強化活動推進、日本代表選手団からの陽性者ゼロ。
 - iii) 憧れられるアスリート
「#arigato2020」企画などメダル以外の感動をアスリートが伝えてくれたことや、ドーピング違反や不祥事ゼロ。
 - iv) パラリンピックとの一体感
スポーツウェアの統一や双方からの激励メッセージ。また大会後のオリパラメダリストによるイベント実施。
 - 2) オリンピズムの普及、推進
 - i) オリンピックの価値
競技の魅力だけでなく、健闘を称え合うアスリートの姿などで、オリンピックの価値を再認識。
 - ii) 発信力強化
コロナ禍で無観客の中でも SNS 発信強化やオンライン活用した子どもたちとメダリストのふれ合いの機会提供。
 - 3) 国際総合大会の派遣・招致、国際化の推進
 - i) 国際交流の推進
ジャパンハウスの設置、オンラインイベントでの日本文化の発信。
 - ii) プレゼンス向上
太田雄貴氏の IOC アスリート委員当選。
- ・ 統括としては、以下があげられる。
 - 1) 目標・施策のうち 8 割が「達成」「ほぼ達成」
 - 2) コロナ禍で無観客の中、SNS でつながる国民が 200 万人増加
 - 3) 大会前後の比較で、オリンピックに関心ある人の割合が増加
 - 4) 大会前後で、「アスリートの姿がコロナ禍の社会に希望をもたらしてくれる」と答えた人が大きく増加
※「多様性と調和」についても、「東京 2020D&I アクション宣言」を公表。
- ・ 今後、この検証結果を踏まえて、中期計画の施策の具体化をしていきたい。

【決議内容】

- ・ 中期計画検討作業の方向性

(2)第 2 号議案 JOC スポーツ団体ガバナンスコード遵守状況に関する自己説明について

- ・ 中央競技団体はガバナンスコードの遵守について、1 年に 1 度の自己説明と 4 年に 1 度の適合性審査を受けることになっている。JOC は JSP0、JPSA(日本パラスポーツ協会)とともに統括団体として、中央競技団体のガバナンスコード適合性審査を行う立場にある。ガバナンスコード

の策定過程では統括団体の遵守状況の審査はどうするのかという議論もあったが、スポーツ団体の自主自立を尊重し、統括団体はそれぞれ自己説明をしっかりと行い、それを公表することでガバナンスが担保されていることを対外的に示していくこととなった。

- ・令和3年度の更新内容を審議いただいたうえで、ホームページで公表する。

【決議内容】

- ・JOC スポーツ団体ガバナンスコード遵守状況に関する自己説明の更新及び公表。

5 報告事項

(1) 専門委員会、専門部会メンバーについて

第6回理事会以降新たに選任した専門委員会メンバーについて、以下太字下線の通り報告した。

- ・国際委員会
委員長：横井裕常務理事
副委員長：鈴木大地理事、太田雄貴IOC委員
委員：荒木田裕子氏、大塚眞一郎氏、川廷尚弘氏、齋木尚子氏、齋藤麻美氏、寺尾 悟氏、中村英正氏、望月宣武氏
- ・ナショナルトレーニングセンター専門部会
部会長：岩渕健輔理事
副部会長：水鳥寿思理事、田口亜希理事、宮本ともみ理事
部会員：前原正浩氏、植田 実氏、中村裕樹氏、小口貴久氏、ブノア・ベトゥ氏、河野孝典氏
- ・アンチ・ドーピング専門部会
部会長：古谷利彦理事
副部会長：谷本歩実理事
部会員：赤間高雄氏、浅川 伸氏、齊藤里香氏、辻居幸一氏、馬場昭江氏、渡部厚一氏、三井梨紗子氏
- ・アントラージュ専門部会
部会長：高橋尚子理事
副部会長：杉山文野理事、古谷利彦理事
部会員：田口亜希理事、太田雄貴IOC委員、杉田正明氏、土屋裕陸氏、能瀬さやか氏、山口理恵子氏、上田大介氏、寺尾 悟氏
※委員会副委員長は職務代行順位順で記載。

(2) 第32回オリンピック競技大会（2020/東京）オリンピック特別賞表彰式及びオリンピック・パラリンピック合同イベント「応援ありがとう TOKYO2020」について

10月12日に池袋ホテルメトロポリタンにて開催。表彰式には、柔道競技阿部一二三選手、阿部詩選手、フェンシング競技見延和靖選手らメダリスト40名が参加し、山下会長から正賞（賞状）と副賞（報奨金目録）が授与された後、喜びと感謝のコメントや今後の目標を述べた。表彰式後にはオリンピックメダリスト30名、パラリンピックメダリスト8名を交えた交流会を開催し、その後、2,700名から選ばれた86名のファンとの交流イベントである「応援ありがとう TOKYO2020」を開催し、配信を通じて約12万人に視聴いただいた。

(3) TEAM JAPAN ブランドの公表について

北京100日前にあたる10/27にTEAM JAPANブランドの発表会と北京2022公式服装発表会を実施。2部構成とし、第二部の北京公式服装発表会はオリ・パラ同一のデザインとして、JPCと共催した。会場とオンラインのハイブリット形式で第1部は関係者のみの限定配信、第2部はLINELIVEで一般にも広く公開し92000人余りの方に視聴いただいたと報告。

(4) 国際総合競技大会関係について

1) 第24回オリンピック冬季競技大会(2022/北京) 日本代表選手団の公式服装について

10月27日に北京2022大会のオリンピック・パラリンピック日本代表選手団のオフィシャルスポーツウェアと式典用の公式服装の発表会を実施。210月28日からは、オリンピックミュージアムにて展示している。東京2020大会に引き続き、北京2022冬季大会においても、オリンピック・パラリンピック同一デザインとなっている。

2) 第30回ユニバーシアード冬季競技大会(2021/ルツェルン) 日本代表選手団について(選手団員、主将・旗手)

編成数は選手76名、監督・コーチ等33名、アディショナルオフィシャル12名の合計121名。団長は原田理事、主将はスキー/スノーボードの清水大智選手、旗手はスケート/ショートトラックの松山雛子選手。優秀な競技成績、トップアスリートとしての人間力を兼ね備えた選手として推薦された。今後、病気、けが等による選手交替が発生した場合は、団長と選手強化本部で確認の上、組織委員会指定の方法に基づき、執り進める。

3) 第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ(3月・タイ)の延期について

2022年タイ、バンコクを中心に開催予定であった本大会は2023年11月17日~26日の開催に延期するとOCAから正式に発表があった。

4) その他

11月12日付で第30回オリンピック競技大会(2012/ロンドン)カヌー競技カナディアン男子シングル200mにおいて銀メダルを獲得したリトアニア選手にアンチ・ドーピング規則違反が発覚し、当該選手のメダルがはく奪されたことがIOCから連絡があった。これにより同種目8位の阪本直也選手は7位に繰り上がるため、今後、ディプロマの交換、受け渡し方法及びホームページ記載情報の変更など必要な対応を行っていく。

(5) TEAM JAPAN パートナーシップの契約状況

北京2022冬季大会の3ヶ月前となる11月4日に、TEAM JAPAN パートナーシップ契約の第一号として株式会社エアウィーブとの締結を発表。同社は、2013年から本会のパートナーとなり、ソチ2014冬季大会、リオ2016大会、平昌2018冬季大会に出場する日本代表選手団へのマットレスパッドなどの寝具の提供を通し、選手のコンディショニングを長くサポートしていただいているが、北京2022冬季大会に出場する選手団に対しても、ポータブルマットレスパッドとハイパーダウンという掛け布団を提供いただけることとなった。

(6) 第25回ANOC総会出張報告

10月24日、25日、ギリシャ・クレタ島でANOC総会が開催された。148NOCがオンサイト、57NOCはオンラインで全205NOCが出席。総会の席上、東京2020大会開催に関し、IOC、ANOC、多くのNOCから本会宛てに感謝の言葉があった。IOCは、東京2020大会、北京2022冬季大会を通じて世界の団結を訴え、オリンピズム365をとおして国連と協働してSDGs(地球温暖化対策など)により積極的に関与することを推奨。ANOCも、2021-2024の戦略プランを発表。オリンピックアジェンダ2020+5についてNOCを先導しハブとなる役割を担うと表明。ANOCアワードでは、「Best Male Team of Tokyo 2020」として東京2020大会野球日本代表チームが、また「傑出した(Outstanding)NOC」として本会が表彰された。

(7) その他報告事項について

・第8回理事会(臨時)を1月20日(木)15時に開催すると報告。

以上